○林委員長　それでは、日程１「陳情審査」に入ります。

初めに、「二番町のまちづくり関連について」です。

本件に関する陳情は、新たに送付されました陳情、送付６－３８、二番町地区計画附帯決議の実行についての陳情及び送付６－３９、「二番町地区地区計画の変更」の附帯決議の「全ての関係者が」話し合える場づくりの開催を求める陳情、併せまして、継続中の送付５－１８、５－１９、５－２１から２６、５－３１、５－４１、５－４５から４９、５－５２から５６、参考送付、今年に入りましての送付６－８、６－１８、６－２６の合計２６件です。

新たに送付されました陳情書の朗読は省略し、関連するため、２６件一括で審査することとしてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長　はい。ありがとうございます。

それでは、執行機関から何か情報提供等ありましたら、どうぞ。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　それでは、環境まちづくり部資料１について、ご説明をさせていただきます。

３月の都市計画審議会以降、附帯決議の内容を踏まえまして、教育機関等への個別ヒアリングを実施してきました。７月に、二番町の地区計画の変更について、都市計画決定をした後は、次のステップとして、前向きに話し合える場を設けるべく準備を進めてまいりました。このたび、区の考え方が一定程度整理ができたため、概要についてご報告をさせていただきます。

資料記載の、まず、開催の目的についてです。番町地域の住民の方々、事業者、関係機関など、参加者同士が対話を通して相互理解を深め、長期的な信頼関係を構築する第一歩とするために、今回、前向きに話し合える場を開催いたします。

次に、資料の構成についてです。区内に在住・在勤・在学の方２０名から３０名程度にご参加を頂きたいと考えております。

続いて、開催の時期等についてです。令和６年１２月末までに開催ができるよう、ただいま準備を行っております。会場については、区役所または出張所の会議室を予定しております。

続いて、実施の概要についてです。番町地域全体としての思いやアイデアを出し合い、その中で二番町の日本テレビ計画で実践、実現すべきものを与件として整理してまいります。その後、これまで寄せられた様々なご意見等と併せて、基本計画への反映を日本テレビへ打診いたします。

また、この当日のテーマについて、あらかじめ区が定めることなく、参加を頂いた方々から出た意見を基に対話を進めていただきたいと考えております。資料にも記載をした、今回はフューチャーセッションと言われる手法を取り入れて、参加者同士が対話を通して、未来に向けた新たな関係性と新たなアイデアを生み出し、協力して行動できる状況をつくり出すための場として位置づけてまいりたいと考えております。

このフューチャーセッションについては、他自治体の事例を参照したほか、千代田区でも、令和３年度、４年度に行われた「ちよだをつなげる女性３０人」という事業で、同様の手法を採用しており、今回の前向きな話合いの場のコンセプトにも合ったものだという

ふうに認識をしております。

開催に当たりましては、話合いをよりよいゴールへ導くために、ファシリテーターの方の役割が非常に大きいというふうに認識をしておりまして、経験が豊富な企業への委託をできればというふうに考えております。また、それ以外にも、専門的な知見に基づくご意見を伺うために、学識経験者等にも参加を依頼させていただきます。

区や事業者が参加者に対して説明会といった形で機会を設ける方法とは大きく今回は異なる取組なので、定員を設けるところではあるんですけれども、その結果、どなたでもご参画は頂くことが難しい形式である分、参加者以外の方々からも広くアイデアを募集する予定です。寄せられたアイデアについては、当日、参加者の皆様へ情報共有をし、話合いに生かしていただくようにいたします。

最後に、資料にも記載の今後の流れについてお知らせをいたします。本日頂いたご意見も踏まえて、仕様を確定した上で、まず、事業者を選定いたします。事業者との協議を重ね、実施内容をブラッシュアップするとともに、日程を確定した後、広報の発行に合わせて、参加者及びアイデアの募集の周知を行うよう考えております。

資料についてのご説明は以上です。

〇林委員長　はい。では、まず、資料についての確認から入りましょうかね。

委員の方、何かありましたら、どうぞ。

〇岩田委員　僕、毎回、こういうことを言っちゃうんですが、在住の方は、もちろん、そこに住所要件がある方を在住というふうにきちんと明確にするわけですから、在勤の方もどういう方なのか、それをちゃんとはっきりさせてほしいんですよ。というのも、区はそういうことはないというかもしれないですけども、以前、オープンハウスでアンケートを取ったときに、デベロッパーの方が来て、実際に何か普通の在勤者でございますみたいな顔をしながら、いや、すばらしい開発ですねみたいな賛成派の意見を非常にたくさん書いていた方が、平日の朝１０時ぐらいですかね、五、六人ぐらい、スーツを着た方がぞろぞろと来て、そういうアンケートを書いていた。非常に、何というんですかね、偏った意見であると思うわけですよ。なので、在住の方をちゃんとそこに住んでいる方と、そういうふうに明確に規定するんであれば、在勤の方もどういう方なのか、なるべくそういう、言い方は悪いですけども、何というんですかね、デベロッパーみたいな方がもう普通の在勤者でございますみたいな顔をして意見を述べるようなのは、ちょっとやめたほうがよろしいんじゃないのかなというふうに思うわけですよ。というふうに心配しています。なので、そこを何とかできないもんでしょうかね。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　ただいまのご指摘につきまして、今回、附帯決議に基づいてこういった機会を設けるわけでございますが、全ての関係者がというようなことで、融和ができるような機会にしたいと考えております。その中で、事業者の定義というのはなかなか難しいので、特定の方を参加できないようにするということはできないのかなというふうに考えているんですが、今回集まっていただく方々については、なるべく意見として多様な意見、公平性の保てるようなメンバーで開催ができればというふうに考えております。そういった意味では、参加するに当たって、どういった動機で参加をしたいかといったようなことを書いていただこうというふうに考えているんですが、その中で賛成の方だけにお集まりいただくというわけではなくて、様々な計画に慎重なご意見の方も

含めて、様々なご意見の方に可能な限り入っていただきたいというふうに考えています。
○岩田委員　参加できないようになんていうことは言っていないんです。その方の属性をはっきりさせていただきたいと言っているんです。このことを、ある放送局の方にぶつけましたら、これ、動員でもあるんじゃないんですかと言ったら、うーん、私どもはやっていませんけども、そういうこともあるかもしれませんねと、そういうことを、まあ、ニュアンスとして、そういうふうにおっしゃっていたんですよ。それだったら、結局、本当の地元の声というのは反映されないんじゃないのかな。だから、別に参加するのはいいですよ。ただ、属性をはっきりさせていただきたいというんです。そうではないと、やはり公平なものとは言えないんではないかと、そのように思っています。
○林委員長　課長、属性というよりも、今回お示ししていただいた２０名から３０名程度というのは、在住でどれぐらいの人、在勤でどれぐらいの人、在学でどれぐらいの人にするというイメージがあれば、併せて、それぞれのカテゴリーとお立場というのが、全部で９項目ぐらいになるのかな、多分、分けていくと。どんな形で選ばれるのか、選ばれる主体はどなたなのかも併せてお答えください。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　仮に、応募がこの想定を上回った場合に、そういった選ぶというような形の声が入るかなというふうに思っているので、定員に満たなかった場合は、その方々に基本的にはご参加いただくものかなというふうに認識をしておりますが、今、委員長おっしゃっていただいたように在住、在勤、在学、一定の割合をあらかじめ決めてということではなくて、そういった記載はしていただきたいというふうに考えていまして、そのほか年齢であったりとか、例えば、性別であったりとか、そういった多様な視点が話合いの中で出てくるようなメンバー構成というのを一番重視をしているので、それが担保されるような形で、属性に近いようなものについては見えるような応募していただきたいなというふうに考えています。
○林委員長　春山副委員長。
○春山副委員長　先ほどから多様な意見が出るようにというふうにご答弁いただいているんですけれども、構成の在住、在勤、在学だけでなく、構成の多様性ということがすごく大事になってくると思います。在住の方でも、子育て中のお母様なのか、高齢者の方なのか、大学生なのか、多分そういう日中まちで過ごしている人、週末まちで過ごしている人、夜戻ってくる人、そういういろんな視点での意見が出るように、構成というのをすごく大事に、構成の多様性というのは、本当に２０人なら２０人全員違うようなライフスタイルを送っているとか意見が出るということがとても大事だと思うので、そこに留意していただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。
　２点目なんですけれども、この今後の流れの中で、「広報紙発行に合わせて周知予定」と書かれていますが、参加募集と同時にアイデアを募集というところで、今までの広報紙発行のツールだけじゃない意見が、アイデア等が取れるような仕掛けみたいなものも考えていただくほうがいいのかなと思います。
　今までのまちづくりのところ、やはり、すごく言いたい、意見がすごく強い人を中心に意見収集するという手法になるんではなくて、本当に日々暮らしている人で、そういうことをあんまり意見をふだん言わない人も、この二番町の地区にこういう商店があったらいいとか、こういう機能があったら、こういう道路のところはこういうふうに歩けるような

まちにしてほしいとか、そういう普通の方々がどう意見を出せるかというアプローチも丁寧に、せっかくの今までにない取組をされるのであれば、取り組んでいただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　ただいま２点のご指摘につきまして、まず１点目ですが、構成の多様性ということで、こちらを確認するには、やはり応募の際にどういったことを書いていただくかということが重要かなというふうに思います。そういった意味では、参加の申込みに当たって、それぞれ応募いただく方がどういうライフスタイルで生活されているかというのをなるべく把握しやすいようなことを、こちらとしては、求めてまいりたいなというふうに考えています。

２点目の広報の仕方に関してなんですけれども、ご指摘いただいたとおり、なかなか通常の広報手段だけだと、これまでリーチできていなかった方への情報提供というのが難しいので、そのほかにも何かふだん私たちが情報をお伝えできていないような方々に、どういった媒体であれば、お知らせができるかということについて考えた上で、何を使うかということも検討してまいりたいと考えております。

○林委員長　どっちにしますか。

小枝委員、どうぞ。（発言する者あり）どうぞ、小枝委員。

○小枝委員　先ほど、地区計画変更の際の決議を反映して、これを行うということを言われたんですが、決議のどこの部分を反映して、これを行うということになっているのかということを伺いたいと思います。

ちょっと一問一答だと、あれでしょうから、加えて、今回、フューチャーセッションというところを活用されるということなんですけれども、まちづくり経験等があるのか、もしくは、ないとしても、ちよだをつなげる女性３０人という方々の取組にどんな成果等があったので、ここに期待をしたいと考えているのか。それが２点目。いいですか。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　まず１点目のご質問につきまして、附帯決議の中のどこの文言に基づいてということですが、こちらについては、附帯決議の前文のところ、「千代田区当局に対し地区の融和を図るため次の事項の実施を要請致します。併せて、全ての関係者がこの問題に関し前向きに話し合える場づくりに協力することを切望します」といったことを捉えて、今回、開催をするものでございます。

続いて、２点目の区の先行事例も踏まえてというご説明をさせていただきましたが、女性の会議で開催をされたということで、その際のご意見を確認しておりまして、例えば、世代や背景が異なっていても、共通の課題認識を持つメンバー同士でチームをつくることで、相互に刺激を受けながら、活発な意見交換ができたといったような声を参加者の方々から頂いたというふうなお話を聞いております。また、ほかの方と触れ合うワークショップへの参加をきっかけに、このときは女性だけでしたが、性別にかかわらず、アクションは誰でもいつでも起こせるという意識を広めることができたというようなことは、所管としても、開催した意義として前向きに捉えているというようなお話でしたので、そういったことをもって、今回、こちらでもフューチャーセッションの方式を取り入れられればというふうに考えました。

○小枝委員　１点目の決議のどこに当たるのかというところが、地区の融和を図るためということで、全ての関係者がこの問題に関し前向きにといったときに、これは、選抜の仕

方によっては一部の方になってしまうんじゃないかということは、当然、心配されると思います。そうならない方法があるのか。

それから、フューチャーセッションなる会議体は、今、どんな成果がと言いましたけれども、モチベーション高く議論するということにおいては、何か話しやすさを、場を持ったんだろうなということは想像されますが、この会議は、そういうことだけでは乗り越えられないものを持っているとすると、そういう認識は、どうやって、決議に書かれている地域住民を二分するような事態が長期にわたって継続している、これを解消して、話合いができる。そういうスキルなんですよね。ちょっと誰しもが心配を持つんではないかと思いますが、そこをどういうふうにフォローアップを考えているのか。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　まず、一部の意見にならないような工夫ということに関してですが、確かに、今回、定員を設けるというところもあるので、どうしても制約が出てしまうというところはご指摘のとおりかと思います。そのため、限られた人数以外の方々にアイデアを求めるというところが、様々な方のご意見を一旦はその場に持ち寄って、それを踏まえた上で、参加者の方々にお話を頂くという形で補完できればと。アイデアの募集ということに関しては、そこを念頭に置いたもので考えております。

続いて、２点目についてです。フューチャーセッション方式を取り入れることで、どこまで問題の解決につながるかというところなんですが、今回の取組に関しては、皆様に番町地域の未来について考えていただくといったようなコンセプトを考えていまして、そういった中で、では、共通する点があったとして、それであれば、二番町の計画の中で反映ができるんではないかとか、お互いに話し合っていただく中で、そういった共通の計画に対してのメリット、そういったものを見いだしていただけるような機会にしたいなというふうに考えておりますので、そういった手法については、これまでこの二番町の計画の中では採用ができていなかったので、説明会といったような形とは異なる手法で、メリットが何か生み出せればというふうに考えています。

〇小枝委員　なかなか答えとしては、そうだなというふうにならないところがありますが、こういう運営をしていたときに、何ですか、途中プロセスで、ドッグランが欲しいとかお風呂屋さんが欲しいとか、いろんな何か無制限の欲望を刺激するような、そういう動きがありましたね。そうなってしまうと、環境を守りたい、番町のいいところを守りたいという意見は置き去られてしまうことが往々にしてあります。それがまた決議に書かれた地域住民を二分するような事態が長く続いていることになってしまう。それを避けるための仕掛けやスキルや手順・手続がここのどこに入っているのかということが非常に重要だと思うので、そこはどう考えていますか。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　まだ確定したものはないんですけれども、今回ご参加いただく方には、あらかじめこの前向きな話合いの場の中で守っていただきたいルールのようなものを提示して、それにご賛同いただける方にお集まりを頂きたいと思っています。例えば、番町地域の未来について真摯に考えた上で、地域に対して、前向きな発言を心がけるということであったり、会議において、今回、様々な多様性のある意見を求めるというお話しさせていただきましたが、恐らく意見が対立するようなケースもあるかと思うんですけれども、それぞれの意見を否定しないような形でご参加いただくとか、そういったルールをつくりたいというふうに考えておりまして、その中で、中には、どんどんこ

ういうにぎやかさを求めるという意見もあるかもしれないですし、反対に、ここでは、広場でいろいろなイベント等は希望しないというようなご意見もあると思います。それぞれが意見を否定せずに、どこで着地点を見いだせるかというところを、フューチャーセッションの中で一つお話を頂ければなというふうに考えています。
○小枝委員　メンバーのほうなんですけれども、今のお話だと、広報で公募みたいな形なのか、それとも、もう半分ぐらいは決まって、区のほうから一本釣りで決めてしまっているのか。情報において、かなり差が出てくると思うんですけども。その辺、メンバーの絞り込み方によっては、決議と逆になってしまうので、そこはどう考えていますか。
○林委員長　併せて、もうスケジュール感を示していただきたいんですよね。広報に載っけるというと、本日が１０月１５日ですから、広報が１２月までに出るというのは、１０月２０日と１１月５日と１１月２０日ですよね。この間に募集の要項とか考えられるんですよね。まあ、女性史とかというのは、基本的には価値観が一つというか、女性のという形なんで、ここ、価値観が少し、少しどころか、大いに割れているところを、二律背反する人たちをどうやって一つの話合いの場に行くのかというのは、プラットフォーム何とかというのでやろうとしている手法ともどこが違って、どこが一致しているのかというところも含めて、スケジュール感を答えていただかないと、誰を選ぶのかとか、選考基準はというやり取りしても、あんまり効率的にならないんで、今、お考えの、現時点の考えをちょっと示していただければ早いかなと思いますので、どうぞ、担当課長。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　今回のメンバーの構成に関して、仮に大勢の方から応募いただいた際なんですけれども、応募に当たっては、現状、公募が望ましいのかなというふうには考えています。一方で、多くの方にお申し込みいただいた際に、どういった観点でじゃあ人数を絞り込むかということに関しては、極力、区が全て決めるということではなくて、お声がけさせていただく予定の学識経験者の方ですとか、可能な限り客観性を持たせた上で、書かれた内容を基に、メンバーがどういった方かということについては決められればというふうに考えてはおります。
　次に、スケジュールについてですけれども、こちらについては、今日のご意見を踏まえまして、早速、今後の流れで記載したようなことについて着手したいというふうに思っておりますが、現状、１１月５日の広報に間に合うようなスケジュールで、一旦は、メンバーとアイデアの募集をしたいというふうに考えております。そこに間に合えば、年内の開催ということについてのめどが立つものと、そのように考えております。
○林委員長　うん。ごめんなさい。だから、１１月５日号に掲載するとなると、ちょっと所管は違うんですけれども、原稿の締切りって、もう終わるか、終わらないかぐらいですよね。そこをどんな基準かというのを、今のところ、こういうふうに考えているんだと、広報に出す字面を。そうすると、やり取りが一致してくるんで、そうじゃないと、多分、一致していない、こうあったらいいなというのを、現実できない話をここでしても仕方がない話なんで。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　今ご指摘いただいた点に関して、仮に、スムーズに進めば、１１月５日号で出せるように枠だけは取っているというのが現状です。で、どういった出し方をするかということについては、イメージしていたものに関してはあるんですけれども、最終的な確定は、本日の委員会でのご報告を踏まえてというふうに考えてい

ました。広報でお知らせする内容としては、単純にいつどこで何をやるかということのほか、その中で、どういったお話を頂くのかというようなことについて、お知らせをするとともに、アイデア募集も今回併せて行いますということで、同じ期間で、この件に関して、様々なアイデアを公募するので、ぜひ、そちらについても、ご応募いただきたいといったような趣旨で、おおむね２週間程度期間を設けて、応募を受け付けられればというふうに考えております。

○林委員長　ということなんです、今の時点でね。何かいろんな修正があれば、その分、後ろ倒しというのか、下がっていくんでしょうし、今の時点は、そんな形で、１１月５日に、人数も出すんですよね、二、三十人って。かなり幅があると思いますけれども。

　どっち。じゃあ、桜井委員、どうぞ。

○桜井委員　いい話合いだと私も思います。スケジュールのことについて、今、委員長のほうで聞いていただいたんで、私もそのことを聞こうと思っていたんですけども、１２月末までに開催予定ということで書かれていますけども、この先の、今までやっていたこの委員会の中でも、基本計画だとか、いろんなスケジュール感のものを一覧表の中に埋めていただきましたよね。そことの関係、これがね、どんなようなことで、区として考えているのか。これは、１２月末までに一応開催予定と書いてあるけども、こういう意見があった、ああいう意見があったということだけのまとめ、取りまとめになるのか。または、もう少し突っ込んだ形の中で、例えば、第２回とか第３回とかというような形でのそういう考えがあるのか、そこら辺のところも、併せて教えていただけますか。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　ただいま桜井委員からご指摘いただいた点については、これまでの資料の中で触れている検討のステップに該当するような部分のお話かなというふうに認識をしております。今後、前向きに話し合える場を設置した後に関しては、基本的に、最終的なイメージとしては、その中のご意見と、これまで出た様々なご意見を併せて、与件として整理をするというところが次の段階かなというふうに思っております。あくまで、その与件の整理ができた段階で、事業者側に基本計画へ反映するものとしてお伝えをしていくというふうに考えておりまして、この話し合える場のスケジュールについてなんですけれども、まだ厳密に何回開催をするということについては決めておらず、まさしく、次回、この１回目、お集まりいただいたときに、どういったご意見が参加者の方々から出るかといったことに応じて、その後の流れについては、ある程度、柔軟に考えていければというふうに考えております。

○桜井委員　この二番町の計画については、都市計画審議会ですとか、建築条例の可決、議決を終わった後に、地域のいろんな方から、私のところに、今後どうなるんですかねという、どういうようなものができるのとか、いろいろな期待感を持った問合せがすごく多かったんですよ。それは、高齢者の方だとか、女性の方だとか、お子さん、小さなお子さんをお連れになって、バギーで買物に行っている方だとか、遊びに行っている方だとか、様々な方がいろいろな期待を含めて、私のところに聞いてこられることがすごい多かったんです。やはり、そういう方たちのその声もきちっとやはり吸い取っていただく、吸い上げていただくということを、どういう形だったらできるのかというところも併せて検討していただきたいんです。

　なかなか、先ほど在勤、在学、在住、男性も女性もいる、高齢者もいればという、確か

にそういうことでまずは考えていくということもあるんでしょうけども、そういう様々な住まれていらっしゃる方の中には、いろんな実態があるということがありますので、ぜひ、そういうことも含めて、どうしたらそういう声が反映できるかというところについて、考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　その地域の方々の期待、また、中には不安という声もあるかなというふうに認識をしております。これまでも都市計画手続の中を通して、様々ご意見は頂いておりますが、今回の取組であったり、同時に募集をするアイデアの中でですとか、もし、ご要請があれば、区として説明に地域に伺わせていただくというのももちろんそうですし、様々な機会を通じて、この計画にどういったお声があるかということについては、区として情報収集した上で、事業者に対して、与件整理の中で求められるものについては、しっかり求めてまいりたいと考えております。

〇林委員長　春山副委員長。

〇春山副委員長　先ほどから、桜井委員も含めて、これからの――委員長もそうなんですが、エリアプラットフォームなり、まちづくりのところとの関係性はという問いがあったと、質問があったと思うんですけれども、この場の中で、与件整理に関わること、二番町の地区計画の内容に関わることと別に、その周辺の影響であるとか、周辺の住環境に関わることというのも、多分、意見として出てくるんだろうなというふうに思います。住環境というのを重視してくださいという中での意見も含めてなんですが、その辺の、事業者さんに伝えていくことと、区として、住民の意見として受け止めるよいきっかけになると思うので、そういった意味での仕分というのも必要ではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

〇江原地域まちづくり課長　今回のフューチャーセッションで様々な意見がある中で、二番町の今回の日本テレビさんの敷地の計画に対する意見もあれば、もう少し広域なエリアでの街路の在り方ですとか、環境に係る話ですとか、そういった幅広なご意見に対する対応としては、また、事業者に指導するものは、それはそれで整理をするとして、次年度以降、こういった住宅市街地における街路計画も含めた住環境の在り方というのは、区としても取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、そういった取組につながるようなものは、それはそれでちゃんと仕分をして、生かしていくように工夫をしてまいりたいというふうに思っております。

〇林委員長　いろいろやり取りで、領域設定というのをどういうふうにするのかって。今の話は、もう少し番町エリア全体なんですけれども、地域の中では、例えば、日本テレビさんの本社が戻ってくるんですよという風説を流布している方もおられる。でも、実際には、建物の内部なんか、そうそう簡単には外部の人が、株主以外が中身を何してくださいというのは言えるところと言えないところが出てくるわけですよね。で、広場のところとか、あるいは、地下部分とか、何階までなのと、スパとか何かジムを入れるとか、入れないとかという風説を流布されている方もおられると。そうすると、どこの部分までは、足元のところが言えてというのをしっかりと明記しないと、建物自体のご意見を言ってもいいんでしょうけれども、言論の自由があるんで、期待感を持って、ここに応募されて、いやいやいや、テレビ局が来るはずだから、もっとアンパンマンのものをやってくださいよと言っても、いやいや、テレビ局なんか戻ってきませんから、スポーツジムだけですから

と言われたら、何か区がせっかく広報でやっているのもおかしくなってしまうと思うんですよね。

もう一つは、まちの足元環境ですよね。ここは、大いに連続性のまちですし、随分議論になった都市計画道路の行く末もありますから、ここは、区として、地方公共団体としてしっかり話さなくてはいけないんで、事業者内部のところで話し合える部分の領域設定と地方公共団体としてできる部分というのを、募集する前にかなり明確に示さないと、夢物語で突入すると、地域を二分したのを収めようと思ったのが、実は、もっと価値観対立にはまってしまうと、もう手の施しようがなくなってしまう心配を払拭していただければ、なるほどねという形になっていくのかなと思うんですけど、そこは、内部でどういうふうに調整されて、事業者とどういうふうに話合いを、どこの部分までだったら、周辺地域の住民の人たちの要望を聞けるんですよといった部分をお示ししていただかないと、ちょっとやって、２回、３回という話になってくると、私も、これっきりなのかなと思っていたんですけれども、千代田区で、一応、場はつくりましたといって、まだ続けるとなると、どうなんだろうというのがありますんで、ちょっと疑念を払拭するような見解を、どうですか。どちら。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　今回の前向きに話し合える場のコンセプトとしては、二番町の計画だけにあらかじめ絞ったお話し合いをしていくということではなくて、番町地域全体に対して、どういった思いをお持ちですかということであったり、番町地域をもっとよくしていくためのアイデアをお寄せくださいといった形で応募を頂きたいというふうに思っています。頂いたご意見の中で、これであれば、二番町の計画で採用ができるかもしれないということを与件として整理する、そういった立てつけで考えておりますので、その中で出た意見のうち、どれを採用するかということについては、どういうご意見かという内容次第かなというふうに思うんですけれども、これまで事業者のほうから示されている低層部については、地域の方も使えるような施設でといったようなアイデアは出ていますので、その辺りは、一つ、二番町の計画で何を反映できるかというところの一つの目安になるのかなというふうに考えています。

〇林委員長　はやお委員。

〇はやお委員　委員長が今整理していただいている内容のところなんですけれども、やはり、ここの再地区計画をして、Ｄ地区になったのかな、地区計画の一部のところについてね。何が間違えてしまうかというと、本来であれば、Ｄ地区のところに幾つかの地権者がいるんですよ。幾つかの地権者がいて、で、行政のほうとして、ここの地域はこういうことだから、Ｄ地区については再地区にしようというのが普通なのに、勘違いしてしまう可能性があるのは、Ｄ地区は日テレだけなんですよ。だといいながらも、この再地区の７００％を容積率として許しているという観点からすると、これは、区がある程度主導しなくちゃいけないということは、これは、たまたまＤ地区がたまたま日テレのためだけにたまたま７００％になっちゃっているわけですよ。ということからしたときに、どういうふうに、区として関与するのか、関与できるのか、そこをもう少し明快に答えていただかないと、例えば、いやいやいや、これは民間のものですから、できませんと言われたら、それでおしまいだけど、私は、ある程度の関与ができなければ、これだけのインセンティブを与えるということについては、例えば、街区公園についても、２,５００平米、譲らなか

ったんですから。というところからしたときに、ここのところに裁量があるんだろうなと思うんだけど、そこをもう少し明確に、まず１点、お答えいただきたいと思います。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　事業者への接し方というところに関してですけれども、附帯決議の中でも、強く区に対して、今後の対応について求められているところはございます。ここで求められている内容というのは、非常に重いものだというふうに受け止めておりますので、事業の具体化に当たって、区として努めるべきことですとか、ここの内容に基づいて、今後、区としては、事業者に様々なご意見があるということに関して、基本計画策定までの間ですとか、様々な場面で区としての考えを伝えてまいりたいというふうに考えています。
○はやお委員　やっぱり一番大切なのは、この前の予算・決算のところでも、ステップのスケジュールが出ていると。何が大切かというと、普通、こういうところについては、詳細なところが見えたら、そこのところ、ブレークダウンしていくんですよね。つまり、何を言いたいかというと、全体の先のことが分からないまでも、結局は、基本計画というのは６か月以上と書いてあるんですよ。もし６か月で整理するというのは、俺は到底できないと思うんですよね、幅広になってしまうから。となると、今、６か月以上と書いてありますから、この与件整理をして、６か月以上かかっても問題ないというスケジューリングなのか、そこを、やっぱり、今、ざっくりとした６か月以上と書いてあるものを、ブレークダウンして、７か月とか８か月とかというスケジュールを出していくのが、それは執行機関の役割なんじゃないんですかということを言いたいわけです。そこをずっともう少し落とせ、落とせ。僕も予算・決算のときに、この話が出てくると思ったんです。６か月と書いてあるのに、こんな悠長なところしていて、整理できるのかと思うのが普通の考えだと思いますよ。
　何かといったら、意見を出して、そこでリターンがあって、また出しますから、キャッチボールがあるんですよ。そうすると、この辺のところ、どこまで反映できるのという話になる。でも、今の今日の話だと、もう一度繰り返しますけど、民間の日テレさんだけのあれではなくて、当然、行政がそれだけのインセンティブを与えるから、そのところについてのある程度の内容の要請の交通整理はできるということをまず確認と、ここのブレークダウンはどのように考えている。ただ、延ばしていいよということであれば、延ばしていいよということを明言、明確に答えていただかないと、結局は、尺度が違う中で、一生懸命話したって、無駄な議論なんですよね。お答えください。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　基本計画のスケジュールの部分に関して、それ以外のところも含めて、まだ具体的にいつ何をするかということについては、お示しをできていないんですけれども、今後、確定できた部分からお示しできる部分についてのスケジュールは可能な限り見える化した形でご説明してまいりたいというふうに思っています。
　現在、基本計画６か月以上というのは、いつから始まってというところがお示しはできていないので、今の時点で延ばす、延ばさないというようなお話では、まだそこまで至っていないというのが現状でございます。
○はやお委員　多分そういうふうに言ってくるだろうと思ったから、現在は、どこの位置にしているんですかという表にしてもらっているんですよ。必ずそれになるんですから。もう２０年近くやっていると、執行機関の、どういうふうに言ってくるのかなと分かるわ

けですよ。ということは、何かといったら、個別ヒアリングとか、こういう教育についてはもう終わっていれば、もう現在という点からしたら、６か月なんですよ。現在と書いてあるんだから。いや、ここのところ、基本計画に書いていないですよというのかもしれない。でも、この数字の幅広のこの感じからしたら、どんなことやったって、１か月かそのぐらいですよ、この幅から。いや、これは細かく書いていないですからといったら、そこを落としていかないと、我々の議論ができないわけですから、そこについては、どのように考えているのか、もう一度、正確に。だから、ここのステップ論というのを、これをどんどんどんどん具体的なものにしていくというのが、見える化なんですよ。お答えください。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　スケジュールのブレークダウン、見える化というところに関して、現状では、申し訳ありません、具体的にまだご説明ができる内容がないというのが実態でございます。その上で、様々ご意見を頂くに当たっては、やはり細かい内容についてお示しをするというのも、時点時点で必要かなというふうには思っておりますので、そちら、お示しができる段階で、スケジュールについてのブレークダウンというところについても、十分意識してまいりたいと考えております。

〇林委員長　ごめんなさい、課長。あんまり片仮名が増えてしまうとあれなんですけど、一つが、今、はやお委員が言われた、これも片仮名なんだけど、ヒアリングという、関係機関の、ここはもう終わった、終わっていないという認識と、聞いた内容を共有する、この委員会で出したから、一応、執行機関としては知らしめたことにはなるのかもしれないですけども、学術的には、実際には、ヒアリングで聞いたことを地域の方たちに共有化する手段というのはなかなかないわけじゃないですか。ここをどういうふうにやった上で、前向きに話し合える場というところに入っていくのか。要は、ヒアリングが終わったか、終わっていないか、個別ヒアリング。で、同時並行で行くんだとしたら、どういうふうに共有をかけていくのかというのを、一個一個、ちょっと確認しながら丁寧に進めていかないと、言葉は丁寧でいいんでしょうけど、後々大変に、あと何か月かやるんでしょうから。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　個別のヒアリングに関してなんですけれども、これまで行ってきた内容をご報告さしあげた後に関しては、現状、新たなヒアリングというのは行っておりません。区としては、もしお申し出があれば、ぜひ、伺わせていただきたいというふうに考えているんですけれども、これまでお声がけがないというところもあって、一応、スケジュール上は間もなくヒアリングが終了するというタイミングで位置づけているものでございます。

　あとは、ヒアリングで頂いたご意見をどういった形で皆さんへ紹介するかということについてですけれども、ちょっと現状まだ具体的にこういった形でといったような考えがまとまってはいないんですが、例えば、前向きに話し合える場で、今回、アイデアを募集いたしますが、そのアイデアの募集と併せて、学校としてのご意見としては事前にこういった内容はヒアリングで頂いておりますといったようにお示しをするというのも方法としては考えられるのかなというふうに思っております。

〇林委員長　だから、はやお委員のやつも、個別ヒアリング、関係機関の、ここが終わったか、終わっていないかで、この話し合える場というのの領域設定が違うと思うんですよね。子どものパズルを見ていたら、真ん中の絵だけ作って、外枠を作らないと、定義が分

からないわけですよ、この範囲内でというのが。個別ヒアリングが、同時並行で、前向きに話し合える場というのをもし執行機関とか日本テレビさんが考えているとすると、やっている最中にいろんな意見が入ってくると、なかなかうまく話をまとめ切れないのかなとは肌感覚で感じるんですけど、そこは全く心配なく、プラットフォーム何とかの経験則を十二分に生かして大丈夫なんですかね。

〇はやお委員　都市計画決定は、あれでは書いてあるのは……

〇林委員長　いや。スケジュール表と多分一致すると思う。ここは確認していかないと、次のステップに、それがステップなんですよね。１個終わらないと、まだまだ上がっていて、どこの階段か分からないうちに、次の段に行くというのは、厳しいのかなと思うんですけど、どういうふうに見解として、日本テレビと執行機関が今の時点で認識しているのかというのを言わないと、やり取りがずれちゃうんですよね。

〇はやお委員　でも、多分、もう個別ヒアリング、こんなことをやっていたら、時間が間に合わ……

〇林委員長　まちづくり担当部長。

〇加島まちづくり担当部長　二番町計画の検討ステップ、予算・決算の委員会にも出していた資料、もしくは、あれだったら、１０月１０日の資料の中に入っていますので、見ていただければなと思います。

　この中で、やはり、これが何月何日ということを書き込みというのはなかなか難しいといったところで、この前向きに話し合える場の検討、設置を今までどういうふうにすればいいのかというのが、区のほうに課せられた大きな課題だったということなので、今日、それのやり方をこういう形で説明しますということをご報告したというところです。

　で、先ほどから出ている個別ヒアリングに関して、一旦終わってはいるんですけれども、やはり前向きに話し合える場の検討の中で、こういったところをヒアリングしたほうがいいよねというようなご意見も多々出てくる可能性もありますので、それは否定するものではございませんので、この検討、設置の中で、先ほど１回で終わるのか、２回、３回、数回になるのかといったところはまだ決まっておりませんけれども、そういう中で、必要だということを判断すれば、やはり、やっていきたいなというふうに思っております。その中で、いろいろと出た意見というのは、事業者さんは、これ、メンバーということではないんで、ただ、場にいて聞いてもらうという形なので、そこで受け止めてもらうだとか、あるいは、先ほど出た、何でしょう、強い要望の中で、そういったことはできないよねみたいなのがあれば、そういった場の中でもご説明してもらうということも大切かなというふうに思っています。

　そういった中で、与件を整理しながら、基本計画という形なので、基本計画ということになると、この図面を描くという形なので、まだそれは着手はされていないということなので、逆に、ここの前向きに話し合える場の検討を早く進めないと、その基本計画もできないということなので、我々としても、附帯決議に書かれているような、まずは、前向きに話し合える場をつくりなさいと。それと、先ほどから出ている地区計画の決定事項である容積率だとか、高さ、これについては、事業者と十分に協議するということなので、このステップの中の基本計画、与件整理された基本計画の中で、そこら辺は、事業者のほうと十分詰めていきたいというふうに思っています。

しかしながら、今、ここで、いついつというところが決まっていないので、このステップの中に明確にちょっと表現することはできないんですけれども、そういう形で、まずは、前向きに話し合える場、これを設置しないと、一歩先に進めないということなので、ぜひ、今日、ご報告させていただいたところに関して、プラスアルファで何かあれば、ご意見いただいて進めさせていただければなと思っておりますので、どうかよろしくお願いしたいと思います。

○林委員長　どっち。

岩佐委員、どうぞ。

○岩佐委員　学識経験者についてのお伺いなんですけれども、学識経験者をどの時点でどういう方を入れるのかというのが、さっき結構広い領域でご意見を募集するとなると、都市計画は決まっているとしても、詳細に入って、テーマをまず共有してきた段階で、どの学識経験者の人を呼ぶかというのは決まってくるんですけれども、初めから決めちゃうと、これというのは、確かに、テーマは、逆に、学識経験者にテーマが引っ張られちゃうと思うんですよね。あるいは、逆に、学識経験者が都度都度フェーズごとに入替えというのか、必要な方をお呼びできるのか、ちょっとそこら辺をどのようにイメージされているのか、教えていただけますか。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　学識経験者に関して、１人というふうに限定しているわけではないので、例えば二番町の計画に関して言えば、これまでの経緯をご存じの都市計画審議会の先生というのも対象になるかなというふうに思っておりますし、あとは、いわゆる学校の先生ということ、教授とかではなくて、同じような事例で、既に実際に運営の真ん中に立っていらっしゃる、地域の活動の真ん中に立って活動していらっしゃった方ですとか、そういった方々も場合によってはお越しいただく候補としてなり得るのかなというふうに考えております。テーマによって、何回やるかにもよるんですけれども、どういった方をお呼びするのかというのは、その都度考えたいなと思っております。

○林委員長　ごめん。とにかく、じゃあ、個別ヒアリングは一旦はもう終わったという認識でいいんですよね。執行機関のほうは、終わったと。（発言する者あり）終わったと。で、次が前向きに話し合える場の検討のところで、いろんな意見で、結局、どうなんだろう。一つが周辺の道路も含めたところというカテゴリーが一つあると思うんですよね。狭い通学路、別に自転車の通行道なんか要らないけれども、電柱があって、ベビーカー、バギーが保育園のときに交差できないようなとか、鉄の柵がある、歩行者安全と言いながらというのが、一つ足元というカテゴリーもあるでしょうと。もう一つが、街区公園のところの広場の使い道というところも、カテゴリーとしてはあるでしょうと。もう一つが交通広場とか、バリアフリーとかを売りにしていたところで、建物の低層部分がどんなものがいいかというカテゴリーもあるでしょうと。

ほかに何か思いつくのって、何か議論で出たのは、大体、三つぐらいなのかな。あとは、周辺環境というのをグループで、グルーピングを分けると、あるでしょうと。これをごっちゃに一遍にして行ける形なんですかね、分類を分けて、意見を前向きに話し合える場というのは。どういうふうに考えているのかなというのがあると、それぞれの――ですかね。

はやお委員、どうぞ。

○はやお委員　また委員長がご整理していただいたとおり、そこのところなんですね。だ

から、先ほどのまず一つは、個別ヒアリングということについて、もう既に終わっているということの前提であれば、そこのところを言いっ放しではなくて、どういうふうに受け止めて、そして、日テレがどういうふうに対応する、できる、できないということをなっているかというところがやって、初めて終わりになるのかなと思うんですね。確かに、間違いなく、ヒアリングは終わっているのかもしれない。だけど、そこのことについての、私は、ちょっとどういう内容だったか、いろいろ言われた話について、こういう話がありましたで終わっているので、ここの整理をできることとできないことの整理というか、問題整理をしておく必要があるだろうねというところが一つ。

で、先ほど言ったように、前向きということで、いろんなやり方があると思います。というのは、みんなで言い合いながら、それで最終的に、例えば、ＫＪ法だとか何かで、カテゴリー別に分けるというスタイルもあるんですね。その中で、絶対、ポイントとして、今、委員長がおっしゃったように、しなくてはいけないのは、環境の影響調査といったところを言って、これが基本設計のところに関わってくるから、ここのところはどうやって最低でも抑えなくちゃいけないかというのは、この前向きに話し合える中での検討をしなくちゃいけないことだと思っているわけですよ。というのは、調査するんでしょうと。だけども、例えば、いろいろなところで、本当にどういう状況だか分かりませんよ。例えば、地下鉄の連絡通路の件についても話がありました。道路については、交互だとかなんとかって、どういう希望があるのか、ありました。そういう調査をしつつ、横にらみをしながら、与件整理がされるというのが普通だと思うんですね。

だから、ここのところについては、前向きなと言いながら、与件整理をすることは、大変な横にらみをしなくちゃ、整理だと思うから、そこはどのように考えているのか、繰り返しになりますが、個別ヒアリングについてのこの整理はどうなっているのか。そして、基本設計の前に整えなくてはいけない環境影響調査というのを、どのようにここの前向きな話合いとリンクさせていくのか。そこのところは考えているのか、お答えいただきたい。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　ただいまのご質問の１点目、ヒアリングの受け止め方について、事業者がどのように認識をしているかという点に関してですが、常に情報共有はしているところではあるんですけれども、併せて、前向きに話し合える場の意見も踏まえた上で、どういったものを与件として整理し、基本計画に反映するかといったところまで、事業者としては、今、こちらからの要望を待っているような状況なので、ヒアリングの結果に基づいて、これができる、これができないということまでは、事業者としての判断はまだ行っていないという状況です。

また、基本計画の策定に向けた環境影響調査に関してなんですけれども、こちらも、与件が整理された上で、こういったものを入れよう、こういった設計にしていこうというような考え方がある程度見えてこないと、どういった前提での調査にするかということが条件として整ってこないので、あくまで、前向きに話し合える場でのどういったご意見が出るかといったようなことが見えてきた後に、その調査についても、具体的な内容が見えてくるものと、そのように考えております。

〇はやお委員　じゃあ、ということだと、これ、私が受け止めたのと、答弁に対して、違ったら違ったと。個別ヒアリングについても、一応、様々ないろいろ内容が出ていると。前向きな話合いというのも、タイミングはあるでしょうけども、そこも全部整ったところ

で、ある程度日テレさんのほうとこの問題整理をするということでいいのか。一つね。あと、もう一つは、結局は、環境整備の設計でといったところで、確かにあるでしょうけれども、一番重要視しているところがここなんですよね。それで、一方では、環境影響調査もしますといったときに、どんなところを重点的に調査しなくちゃいけないのかって、それは、ある程度の話は出ているとは思うんですけれども、運用で逃げられることもあるだろうとか、こんなふうなところで、実際、もう既に出てきたように、学校側のほうのこういう時間にいっぱいなんじゃないかとかって、こういうところを、やっぱり、ある程度、多少そういうものに関しては誘導しておかないと、出てくる結果論だと、ポイントがずれるということもあるので、この辺はどういうふうにやって、出てきてからって、全てやってみなけりゃ分からないって、昔、誰かが言っていたけれどもね。何というの、ある程度、ガイドライン的にせめてここは押さえたいという整理はできているのかどうか、この２点。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　１点目のご質問に対しては、委員おっしゃっていただいたとおりというふうに考えています。それぞれ様々なご意見が全てそろった後に、事業者に対して、与件として何を要望するかというのを検討してまいります。

　２点目に関しては、重点的に何を取り組んでいくかというようなことのご質問だったかと思いますが、これまでの様々なご意見いただいた中では、交通量の調査に関しては、実施の仕方について、工夫の余地があるだろうというようなご指摘を頂いたものとして考えておりますので、特に、この交通量の調査ということに関しては、必要なものだというふうに考えております。

〇春山副委員長　関連。

〇林委員長　どうぞ、春山副委員長。

〇春山副委員長　関連で、この前向きに話し合える場の中で出てきた意見も含めて、環境影響調査をしていくというふうに理解をしました。で、この環境影響調査、どこかに出すんだと思うんですけれども、調査項目というのがとても重要になってくるので、ここのところ、やっぱり、しっかりとどういう、交通量だけじゃなくての環境影響というものを調査していくのかというのは、ここはかなり丁寧にしていただかないと、本当に番町なり住環境ということを理解しないままの環境影響調査がふわっとしたものが出てきて、それが計画に反映されても何の意味もないので、ここは、ちゃんとしっかりと取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　そういった前向きに話し合える場でのご意見等も踏まえて、住環境を考えるに当たって必要な調査項目のご意見とアイデアというのも頂けるものというふうに思っておりますので、そういった点についても加味した上で、調査の内容については検討してまいります。

〇春山副委員長　そこのところが、やっぱりかなり専門的なそういうことを今まで取り組んできた学経の先生も含めて、きちんと影響調査項目というのは取り組んでいただきたいなと思います。

〇林委員長　いいですか。頑張りますとか、いいんだったら、小枝委員。やる、言わない、言う。

〇加島まちづくり担当部長　番町に関しては、日本テレビの開発もありながら、地域全体をどう捉えていくんだというようなご意見もあったかなというふうに思います。二番町の

開発に関しての、それのみの環境影響調査というのは、やはり事業者さんがやるべきものというふうには考えておりますが、それに影響される周辺、周りだとか、そういったところ、先ほどから出ている来年度へ向けての検討だとか、そういったところに関しては、区のほうがやらなければいけない部分が多々あるかなと。それに関しましては、地域の方々といろいろ協議しながら、どんなふうなことをやりたいよを踏まえて、どんな調査をするべきかというのも、これは、学経の方々にもちょっと聞かないとならないかな。そうすると、日本テレビさんの事業の関係と全体のまちづくりのことを考える関係と、ちょっと二つあるかなというふうに考えておりますので、そういった捉え方をしているというところでございます。

○林委員長　どうぞ、小枝委員。

○小枝委員　環境影響評価の話なんですけれども、このお話というのは、もう、この計画が出てきた構想の段階から、つまり、平成２７年から住民側、団体から調査をしてくれとずっと言われて、たしか私の記憶では、都市計画を打つ、打たないの４０時間にわたる審議の中でも、影響評価の紙を出してくれと、資料を出してくれというふうに言ったら、もう１０年前だったかな、随分古い資料が出されて、これじゃあ、今の状況と全く違うということで、やります、やりますと。区としても独自の予算もありますから、やりますということで、今、ここに来ているし、学校からのヒアリングでも、かなり強く交通量をやってくれと、人流、車、それから騒音、風ですね、やってくれと言われていて、そこはもう前さばきとして、当然、やった中で始める、そういうことをやらずに過ごすから、前向きに話し合えない要素が出てくるのであって、どうして先送りにするのか。何一つやっていないということは、また不信感の再燃になる、再燃というか、現実にあるわけですから、そこはちょっと仕事の仕方として違うんじゃないかということを、どういうふうに説明できますか。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　環境影響調査の項目に関しては、最終的に、今回できる建物の中に何が入るのかという用途の部分であったり、あと、高さに関しても、まだ具体的にこうだというものについては決まっていない状況で、そこの内容が一定程度整理された後に、情報としてお示しできるものも非常に多いかなというふうに考えております。そういった意味では、出すタイミングというのはそれぞれ異なってくるかと思うんですけれども、交通量調査等、用途がある程度見えてくれば、お示しできるようなものについて、早いタイミングで、こちらについては結果をお示しするということも考えてまいりたいと思っております。

○小枝委員　やり方はいろいろあるわけですよ。高さだって、初めから８０が所与じゃなかったわけだけれども、６０が所与であるところに住民の課題解決のためであれば、７０、８０いいよということになったことを考えれば、８０、７０、６０のそれぞれの評価だって、できるわけですし、容積率だって、そもそも所与だったのは、ほぼ４００、たしか３０ですよ。それを７００まで地域のためにといって上げたんであれば、そのデメリットとメリットを比較するために、環境影響を評価してくれということを言っているわけだから、全部決まらないとやらないという、それは事業者が言うことなんですよ。さっき事業者判断がしていないと言ったんだけれども、事業者判断をさせるということも含めて、区の真ん中に立つ立ち位置として、住民を前向きに心配ないですよということを言う方法の誠実

なやり方の一つだと思うんですね。

もう一つ、誠実なやり方があるんですけれども、神保町のところで再開発がありましたときに、あのときは、三井不動産と９８メートルの建物ですけれども、住民、地元住民、商店街とかなり押し問答があった末に、どうしたかというと、事後アセスもしたんですよ。音も、騒音も、あと風も、１年間か半年、ずっと数字を取ったんですよ。だから、事前に取る。そして、比較考量を出す。そして、事後で取る。そういうふうなことをすることによって、人々は少しでも環境を、何というんですかね、が悪くなってもいいんだというんじゃなくて、環境を守りながら、ぎりぎり住民の課題解決をするために何ができるかという同じテーブルにつける前提条件だと思うんですよ。そういうことをお考えくださいませんか、あるいはお考えくださいましたか。

〇江原地域まちづくり課長　今、小枝委員のご指摘で、事前、事後、事後は従後ですけども、少しでも多く見える化をして、住民に指し示すべきじゃないかというようなことかなと思います。そこはごもっともかなというところでございまして、ちょっと、この番町のフューチャーセッションにどこまで出せるかというところはあるので、間に合わないかもしれないんですけども、事前、事後、ちゃんと事後も含めて、再開発なり、大規模な開発後、そういった環境の調査をして、住民の方々にきちんと可視化していくということについては、今、そういったちょっと制度設計に向けて検討しているというところでございます。今後、区内のあらゆるまちづくり、大規模なまちづくりにおいて、そういった開発に際しては、そういったことを義務づけるというか、制度化していくということは、方向性として必要かなと思っております。

今回のこの番町のフューチャーセッションにつきましては、そういった環境影響をどれぐらい、今回、都市計画のフレームで、建物ボリュームというのはある程度見えていますので、都市計画の手続のときにも、風、日影、どういった影響が出るのかということは、お示しをしてきているところでございます。ですので、そういったものも、対話の中で参考でお示しをしながらというところは、やり方としてはあるかなとは思います。ですので、今後、まちづくりを進めていく上で、そういった、いかに可視化を進めていくかということは課題認識として持ち合わせておりますので、そういった検討は並行してやっていくと。この番町のフューチャーセッションにおいては、番町エリアで今後どうしていくかということを幅広に出してもらって、二番町の今回の計画の中で、生活の質を高めるために取り入れるもの、長期的な視点で、番町地域でやっていくということを区として検討を進めていく必要があるもの、その辺りはきちっと見える化をして、お示しをしたいというふうに考えております。

〇林委員長　ということで……

〇小枝委員　やると言ったんだよね。

〇林委員長　先ほど、きれいな議事整理かどうかは自信はないんですけれども、自信はないんですけれども、（発言する者多数あり）前向きに話し合える場というところのカテゴリーを――いいですか。ねえ。（発言する者多数あり）いいですか。

〇小枝委員　あ、すみません。はい。

〇林委員長　前向きに話し合える場って、まあ、こういうことを言うから駄目だと言われるんですけど、近々にやりたいわけですよ、近々に。で、これ、今のまま、私が皆さんの

やり取りを聞いている限りだと、あらゆるボリュームゾーンを、先ほどちょっと整理した広場についてとか、建物の低層部の公共の施設についてとか、建物の環境についてとか、もうちょっと周辺の街区的なまち並みについてとかと、幾つか分けたほうが早く行くのかなという、限られた時間の中で、二、三十人の方がそれぞれの部分をお話しするというのも一つのやり方ですし、少し分類をかけて丁寧な形で前向きに話し合える場というのを設置をかけるというのも一つのやり方で、どっちが早いか、遅いか、丁寧か、丁寧じゃないか、納得感を得られるのか、得られないのかというところで、価値基準が幾つかあるんですけれども。

今日、陳情２６件の陳情審査の中で、事態が動くのは、１１月５日の広報千代田でどういうふうに打ち出すのかというところで、実際、やり取りがあったように、原稿はもうほぼほぼ固まっているんで、これでどうするかというところで、環境の評価のところはこれは現在進行形で話し合える場のところと、来年度に向けて、進行形で行けるところもあるし、広場のところは、ある程度区切りをつけて、どんな使い道の設計にするんだと、これが決まった段階で環境評価のほうに飛んできたり、公共の施設でも、どんな公共の施設を建物の低層階に造るのかによって環境も変わってくるというところの幾つかあるんですけど、どうしましょうかね。一遍にやってみて、やってみなくちゃ分からないとかって、やったほうがよければ、このままの状態で行きますし、ただ、環境だけを先に持ってくるというのは、建物の中身によって大きく変わるんでしょうし、広場の形態によっても大きく変わるんでしょうから、ここは同時並行で行くのか、どうするのかという判断をしたほうが、１１月５日の広報なんで、締切りももうあれですよね、終わるんですよね。（発言する者あり）もう出しちゃっている。（「エントリーだけは」と呼ぶ者あり）エントリーして、あと、だから、微修正をかけるかどうかというところで、人数も二、三十人程度というのを、これ、記載事項に合っているんですよね。まあ、十分、不十分はあると思いますし、先ほど年齢とか生活の居住の、夜、住んでいる、夜、仕事から帰ってきて住む人だけと日中生活している人とかって、それぞれあると思うんですけど、これで十分か不十分じゃないかというところを確認したお返事しないと、みんなまとまらなくて、どうしましょうといって、やってみたら、ほら、駄目だったじゃないかと後で言われても、きついもんがあるのかなと。別に無理にまとめようという気はしていないですし、きついかなとは思うんですけれども、一遍にやるのは。肌感覚でも、これまでの経緯、経過を見ても、陳情の数を見ていても、様々な立場から出ていますんで、行けるって学識経験者が言ったとしても、きついのかなと思いますけれども、どうだろう。

どうぞ、小枝委員。

○小枝委員　おっしゃることも分かるところはあるんです。空回りをしてしまってもいけない。で、区のほうは、とにかくこれで行きたいと言っている。ならば、これで行く方法の中に、何というか、つまずかないというか、信頼を得るようなやり方をもっと盛り込んでいくということによって、今の環境アセスもやって、今、やっていないけれども、同時にやりながら前に進んでいくということだって考えられるだろうという考え方もあることはある。

けど、そうすると、本来、何というんですかね、また世田谷の話はあれかもしれませんけども、非常に深刻度において似ているものですから、下北沢のことをいつも言ってしま

うわけなんですけれども、そこは都市計画審議会の学者委員が全員辞任をするというほどドラスチックなもめ筋の中で都市計画が進んでしまい、それをどうするかといったときに、誰もが参加できる形で、１００人でもどうぞと言ったら３００人来た。でも、そういう説明会という形で意見をどんどん言っていただいて、ファシリテーターがちゃんとその中の意見を受け止め、それをニュースでフィードバックしてというような形で、本当に行ったり来たり、そこでは、区長が先頭に立って、どんな罵倒をされても、どんなことを言われても、それに対して、ちゃんと答えていくということをやったという中で、うんと反対している人も、どうにか反対している人たちの意見を頂きながら、まちづくりを進めていく中で、雨庭であるとか、ちょっとすてきなホテルであるとか、保育園であるとか、そういう道並みを造っていったと。これが理想というふうに私は思ったので、できれば、女子会的な形でないほうが、まちづくりの乗り越えた経験を持つ、そうした、何というんですかね、会社もありますし、ファシリテーターもいるので、そうしたほうがいいんじゃないですかということは思うんだけれども。

最初に、一言だけ。ファシリテーターのところは、経験豊富な企業にしますみたいなことは言っていたので、ちょっとそこまで進まなかったけれども、それはどうするんですかということは聞いておきたいです。

それと、誰も置き去りにしないというか、先ほどの環境アセスに戻して言えば、じゃあ、環境のことがどうしてこんなに心配されたのかということについて、知る人も、知らない人も、この会議体に入ってきて、事実上、このフューチャーセッションが議会のような役割になってくるようなイメージを持っています。もっと言えば、協議会かな、みたいな形になっていくだろうということを思いますと、そこの、何というんでしょう、そこのグループワーク的なやり方だけでやっちゃうのか、もっと対住民に対して説明会をする場を持つのか、それから、環境アセスメントの関係でいうと、この１１月５日、もしくは、それが無理なら１１月２０日の広報で出す内容に、アンケートとして、番町のこういうところ、どういうところを守りたいですかとかという項目を入れて、あるいは、番町のどういうところが好きですかとかという項目を入れて、そういう中から、そうした住環境に関心のある人も決して排除しないということを考えていくであるとか、そういうふうな形で、会議体の重みと、それから、開かれた運営ということを全力でできるのか、ニュースも含めて。そこら辺がもう少し見えてくれば、乗り越えられる山があるかもしれないというふうにも思うんですけども、ちょっと言っていることは変ですか。

○林委員長　何か、例えば、男女比についてというのは、いろんなところで課題となっているんで、ここの場で、４０％でしたっけ、区のほうで、ここは死守、お互い、双方ですよね、やったほうがいいんじゃないかとか。今、私が議事整理しようとしているのは、例えばとしてはよくないんでしょうけど、飛行機も何でも、戦争も、始めるのは簡単で、飛び立つのはいいんですけど、そろそろ着陸態勢にこの二番町のが入ったと。これでいいんだよ、行っちゃえよといって、突撃すると、大体、往々にして事故が起きたり、ほかの公共的なものとか、ほかにも陳情審査がありますけれども、強気論って格好いいんですけど、格好いいんですけど、やれと、進めろというのはいいんですけど、なかなかうまくできないんで、そうすると、幅広に手段を考えながら、行ったほうがいいのかなと思って、カテゴリー分けにして、幾つかやるのも一つの方法ですし、区のほうで考えている一発で仕上

げるというのも考え方なのかなという、そこの判断を、今日、委員会のほうでしないと、先送りだけで行っちゃうのかなと。うん。（発言する者あり）ということを、うん。（発言する者あり）

だから、いろんな分類のはそれぞれあるんですよ。ただ、今日の時点で、１回でどうぞとなったときの収拾方法が極めて大変なんではないのかなと。だって、片方は広場って、片方は、いや、バリアフリーって、片方はドッグランとか、いやいやいやいや、全体のバリアフリーの道をとか、歩道をどうしてくれとか、そんな話がごちゃ混ぜになって、ファシリテーターって、きっと有能な方なんでしょうけど、価値観の違う軸でまとめるというのは厳しいから、ある程度の分類別をかけてやるのも一つの方法かなと思って、皆さんにご意見を聞いてみました。ここに、一つが環境の影響のというのは、課題としてありますけれども、ここは、多分、今もやらなくちゃいけないんでしょうけど、建物の形状がある程度決まった段階までの猶予期間があるのかなという、何もない広場は広場で、設置物もなく何もないところと、いろんなイベントができるようなところになったら、周りの環境って違ってきちゃうんで、少したおやかに行ってもいいのかなとか、地下から地上何階部分のところには、にぎやかな施設を造ると、まちの影響もあるでしょうし、地味な本当に会員制スポーツジムになると、そんなに影響もないでしょうし、部分部分のある程度骨格が見えてくるところまでは猶予があるのかなと思って、議事整理をさせていただいたのと、１１月５日って、もう着陸態勢にとにかく入っているんで、ここを、もう一回、引き延ばしてといって、もう一回上に飛び立って、１周回って飛行場に戻ってくる、滑走路に戻ってくるのも一つの方法ですけれども、あらゆる手段を尽くすのも一つの考え方なのかなと思っていたんですけど、それじゃあ、不十分なあれですかね。

どうぞ、桜井委員。

○桜井委員　今、委員長が言われたこと、そうかなと思って聞いていたんだけど。先ほど小枝さんが言った心配も分からない話じゃない。ただ、これ、１００％のものって、ないですよね、これは。様々な意見がある、要望もある、それで、前向きに話し合える場をつくろうよという要望があって、こういう形で、確かに期間的、スケジュール的にもうタイトでないよねというところなのかもしれないけれども、だけど、じゃあ、これを延ばしたところで、完全なものができてくるかというと、僕はそうは思わないんです。思わないんですよ。さっき委員長が整理を途中までされたけど、だから、何しろ、前向きに話し合える場なんて、すごい飛躍をして書いているなと、実は、僕は最初見たとき、びっくりしたんですけど、でも、やっぱり、そういうところに入っていかないと、話も、お互いの話も聞けないということであれば、まずはやってみなさいよと。執行機関、やってみなさいよと。いろんな意見もあるかもしれないけども、どういう意見があるかというのは、今までも出てきてたけど、まずは、やってみなさいよと。そういうような、今、段階に来ているんじゃないでしょうかというふうに私は思います。

○林委員長　どうぞ、春山副委員長。

○春山副委員長　私も、桜井委員の意見に本当に賛成というか、同じ考えです。いろんなまちづくりでもめごとがあった事例だとか、最終的に完成したものとかの経過というのを、いろんな自治体とか、いろんなまちづくりの方々と議論したり、いろんな話を聞いてきている中でも、最初から完成して、これができると思っていたということはやっぱりなくて、

イメージとしては、こういうほうがいいよねという共有はありつつも、話合いの中で少しずつ変化したり、前に進んだりとかというところでやっていくんで、まず、スタートすることが大事だと思います。

委員長がおっしゃるように、幾つかのテーマのところ、執行機関の中では、重点に足元空間と交通と広場の使い方というような、そのところはやっぱりちゃんと最初のファシリテーターのところで整理しながらも、それが、ここはもう少し、もう一回開催したほうがいいテーマがあれば、それはそれでそれを中心にやってみるとかという、最初にまず踏み出した中で、イメージはしながらも交通整理していくということが、やっぱりすごいまちづくりにおいては必要不可欠というか、それ以外の方法って本当にないと思うので、そこはしっかりとそういうイメージを持って取り組んでいただきたいなと思います。

○林委員長　どうぞ、はやお委員。

○はやお委員　私は、これだけ幅広にやるというのは、これ、都市計画を決めるときに、本来、基本計画がなくちゃいけない。それを都市マスタープランに求めたという、本来そこでやらなくちゃいけないことを、今、幅広にやっても、ほとんど私は議論にならないと思っています。何が一番大切かというと、もう、ここに来たら、ぶっちゃけた話でですね――あ、また汚い――開けっ広げにやって、何かといったら、当初は１５０メートルと言っていたわけですよ。それを９０メートルに変えて、８０にした。また高さのことを言うつもりはないんですよ。私が経営企画にいたら、ここのところの７割から８割というのは決まっているんですよ。それじゃないと、経営計画は立てられませんから。ここのところは、オフィスにしましょう、ここのところについては、まだ流動的でって、あるんですよ。そういう計画になっているはずなんですよ。だから、七、八割ぐらいは何人ぐらいが来るなんて分かっているはずなんですよ。それがなかったら、何百億なんて数字なんて、やりませんから。だから、そこのところが、どこが流動的なものなのかということを明らかにすることが大切であって、幾ら夢を持たせて、もしそんな程度でやるんだったら、ガス抜きですよ、はっきり言って、これは。（「そうだ」と呼ぶ者あり）（拍手あり）やめてくれ。

まあ、ガス抜きになっちゃうんですよ。だから、私は、何かといったら、委員会集約をしているから、いろいろな環境の調査を含めて、実務的にやるためにはどうしたらいいかといったところに、もう現段階は来ていると思います。だから、方法論としては、委員長がおっしゃるように、一つ、テーマごとに整理するのもあるでしょう。だけど、ファシリテーター、つまり、コーディネーターが非常に優秀であれば、その整理ができるというのは聞いておりますので、まず、やってみるというのはいいでしょうけれども、そこのところについては留意するべきところをきちっと指摘しておいていただいて、その整理について、また戻していただく。それは何かといったら、委員会集約していますから、ここのところについては、やっぱり実務結果を出さなくちゃいけないといったところにあるんです。あんまりにも幅広にやり過ぎても、結果的には、実務的にはならないだろう。でも、なるべく皆さんのご要望というか、地域の事情をどうやって整理していくかって、ここは悩み苦しむところだと思うので、ここは、みんなで本当に執行機関と議会が苦しみながら、そして、また、地元の方々と相談してやっていくという、何というんですかね、真摯な態度をもってやっていきたいと思うので。だから、そこのところで、その一つとして出たんだ

ろうとは思うんだけど、だから、そこが、一つとしては、ファシリテーターにその能力がありますよとかと言い切ってもらいたいわけよ。

それと、あと、このフューチャーセッションとかという、このプラットフォームのやり方というのは、我々は今後こういうことを整理していくプラットフォームにしていきますって、何がどう違うのか分からないわけですよ。ただ、そこも、きちっと言わなくちゃいけないことだと思うんです。それは、委員長がさっき指摘したんで、そこはちょっと結論が弱いから、そこが何なのか、そして、やっぱり、ここのところについては、こういうことを分かった上で、大変だけども、整理できますよといったところについて、自信を持って言ってもらわないと、何だか平気かなという話になっちゃうから、そこをお答えいただきたい。

○加島まちづくり担当部長　今、はやお委員にも整理していただきました。この前向きに話し合える場というのはもちろん初めてですので、どういった形でやったらいいのかというのは……

○はやお委員　錯誤だよね。

○加島まちづくり担当部長　相当悩みながらやったと。じゃあ、やればいいのかということでもないと。逆に、やると、かなり苦しいのかなというところも……

○はやお委員　苦しいよね。

○加島まちづくり担当部長　あるのかなと思いますので、そこら辺は、苦しみながら、まずはやらせていただきたいというふうに思っていますので、そこら辺は、そこで、何でしょう、そこで突っ走るとかなんとかというやる気は全くないので、そういうことじゃなくて、ちゃんと皆さんの融和、全ての方が１００％オーケーかって、なかなか難しいとは思うんですけれども、なるべくご理解いただけるような形を整えるというのが、我々の役割だと思っていますので、それに向けて、苦しみながら進めていかせていただきたいので、ぜひ、本日報告した内容はやらせていただきたいというふうに思っています。

フューチャーセッションに関しては、ファシリテーター、ファシリテーターは都市計画の方ではありませんので……

○はやお委員　うん。そうだよね。

○加島まちづくり担当部長　まとめる――まとめるって、話がスムーズにいくと。一方で、やっぱり都市計画の話も出てきたりしますので、それで学識経験者、特に、この附帯決議を十分読み込んでいる方、理解している方にお願いしたいというふうに、了解をもらっているわけじゃありませんので、お願いしたいというふうな形になっています。

プラットフォームに関しては、どちらかというと、今回のフューチャーセッション、協議会ではないんですけど、協議会みたいなエリアプラットフォームみたいな位置づけで、我々が今取り組んでいるまちづくりの千代田まちづくりプラットフォームは、エリアプラットフォームに助言するような形のプラットフォームということなので、ここの二番町の前向きに話し合える場が少し足りないよねと、何かこういうことをやったほうがいいよねというようなものがあれば、助言してもらうという形なんですけど、まだそこが完全に出来上がってはいないので、まだそのシステムが構築は全てされているわけではありませんので、今回は、フューチャーセッションの中に学識の方もいる、また、先ほど、テーマによっては違う学識の方というお話もありましたので、そういった方々の意見だとかを踏ま

えながら、進めていきたいなというふうに思っております。
　ちょっと時間がかかっているというのは事実です。もう３月に都市計画の審議いただきながら、ここまで時間がかかって、大変申し訳ないというふうに思っているんですけれども、我々、この前向きな場をしっかり取り組みたい、どういった形でやりたいということで、相当悩みながら来たということですので、ぜひ、これを進めさせていただければなというふうに思っております。
○林委員長　どうですかね。ご意見、今、一つが１１月５日号でやると。形態については、いろいろ議論があると思いますし、２０名から３０名程度というのが、これが解の公式なのかというところは出てくると思うんですよね。これでぎゅっと絞ると、カテゴリーでもちょっと不十分だというのもあるかもしれないんですけれども、当面やってみる、いろんな意見を聞いてみるというところの整合性は、１回で終わるかどうかというところをどうするかというぐらいで、始めてみる、まずは始めてみるというところが最大公約数で一致できて、プラス、だから、表記の仕方で、ほんと２０名から３０名程度って、がつんと書いちゃうと、もうここから広報千代田ですから、譲れなくなるんで、どうなのかなというのはあるかもしれないです、幅広に意見をとか、全ての人をとかとなってくると。ただ、やらないで、どんな形式が最もふさわしいかというところになってくると、多分、永遠に解けない謎になってくるというか、全地権者と全住民にとって、また最初に戻って、本当だったら、もっと先に話を進め、こういうのをやっておいてくれればよかったのにねという堂々巡りに入っちゃうんで、かなと思うんですけれども。
　その上で、どうぞ、岩田委員。
○岩田委員　僕も、最初、この日テレの土地だけの話なのかなと思いきや、番町地域全体ということになったら、それこそ、中身云々よりも、僕、最初に言った、ちょっとしつこいですけども、在勤のところで、これ、本当にきっちりとなるべく属性が分かるようにというんじゃなくて、前のオープンハウスのときみたいに、ちゃんと業者名を書かせればいいんですよ、と思うんですよね。
　以前、外ーのところで、これは説明会だったか何だかのときに、準備組合ですというふうにずっと言っていた方がいた。そしたら、区民の方が、あなた、さっきから準備組合と言っているけど、野村不動産でしょうと言ったら、実はそうですと。じゃあ、何で最初から言わないんだ、ひきょうじゃないかというような話が出た。だから、そういうような疑念を持たれないように、ちゃんと出てもいいですよ、でも、私は何とか不動産です、何とか建設ですとちゃんと名のってやればいいんですよ。工事に関する業者さんとか、あとは、何とかテレアートとか、何とかアックスオンみたいな、そういうようなのを隠して、何か、いや、まちのためにこういうふうに再開発をどんどんやったほうがいいですよみたいな、もう、そういう人たちなんか、はっきり言って、住環境は関係ないんですよ。自分たちの自社の利益のみ。だから、そういうのを地元の方たちの意見ですよと言われちゃっても困るんですよ。だから、言いたいことがあるんだったら、正々堂々と、そういうのも名のってやったら、みんな納得するような感じになるんじゃないかなと思うんですけども。
　前の、何だ、説明会じゃなくて、何だ。パネルとか、やった、やっていた説明会じゃ（発言する者あり）あ、オープンハウスのときみたいに書かせればいいんですよ、堂々と。そうした上で、ちゃんと意見を述べる。それがいいんじゃないですかね。

○榊原麹町地域まちづくり担当課長　どういった立場で、それぞれの方がご意見を上げるかということに関して、どこまでお知らせしてやるかというのは、すみません、ちょっと私たちで今こうだと決めるよりかは、ファシリテーターの方等と相談したほうがいいのかなというふうに思うんですけれども、もし、そういった身分も全て明かした上でというのが理想的だということであれば、そういったご協力は求めていくということも考えてまいりたいと思っています。
○岩田委員　それは、必要かどうかというのは、誰が決めるんですか。ファシリテーター、それとも、区民の皆さん。
○林委員長　まあ、なかなか難しい。一つが、区内に在住している方々というのが、自分の名前を知らしめて意見を強く言いやすいかというと、なかなか言いづらいんだろうなと思うんですよね。私ども区議会の者がどこまでそこをしんしゃくして、意見を吸収して言えるのかというのは職責になってくるんですけども、併せて、在学の方も、まあ、教育機関の大人には聞いていただいたんでしょうけど、本当に進学校で通われている方とかというのは、とにかく自分のいるうちはもう勘弁してくださいよというのが、保護者を含めて、実情だと思うんで、それが、じゃあ、名前を出して言ってくれるのかというのはかなり苦しいと思うんですよね。それと、区民の方と在学の方はきつくて、岩田委員おっしゃった企業の方は、じゃあ、どうするというところだよね。そこだけ名前出し。ほかはなかなか苦しいんじゃないのかな、区民在住の方とか、隣近所の関係もあるし、名前がぼんといって。ただ、企業の方といっても、みんなコピペでばあっと大量動員のような形でこういうのを募集かけちゃうと、またそこはきつくなってくるんで、ここの整合性だけどういうふうにやるのかというのを。
　だから、先ほど、冒頭言ったように、この二、三十名の分類をかけるのを、区民枠はどれぐらい、在学どれぐらい、在勤どれぐらいというのは、全部裁量の中でやるのと、ある程度確認してからやるので、後々、やっぱり、これやったのは何か違和感があるとかと言われる度合いを少なくするには、人数で苦しければ、土俵を大きくするんでしょうし、この人数で行くんだったら、最大３０名で行けるという自信があるんだったら、表記の仕方で、広報千代田にかけるんでしょうし、これ、最大３０名って、実は、もっと必要だから６０になりましたといったら、今度、信頼感がなくなってくるわけですから。最初のきっかけの文字を打ち出すというのは、慎重の上にも慎重でやられたほうがいいのかなとは感じるんですけれども。
　いいんですよね、区民と在学のはいいんですよね。
○岩田委員　そうです。はい。
○林委員長　うん。どう。何かある。（発言する者あり）
○桜井委員　区だって、考え方が……
○林委員長　あるから出した……
○桜井委員　２０から３０ということについて、話しやすいためとか、あるんじゃないの。
○林委員長　分類とか、きっと……
○桜井委員　この右側で輪になっているけどさ。何かイメージ的に話をしやすい……
○岩田委員　８人しかいない。
○桜井委員　最低、このぐらいの単位でいいんだよねとかね。何かあるんでしょう。それ

だってね。
○林委員長　うん。もう一回、じゃあ、広報千代田に書くんでしょうから、区内に、順番はどうかと思いますけれども、在住、在勤、在学の方という、ここの説明をもう一度していただいて、その上で……
○春山副委員長　他事例とかも、この期間にかなり調査されて、こういうイメージというか、開かれた場というふうにあんまり言うところはないでしょうけど、皆さんのまちづくりが弱いところというようなところを調べられて、組み立てされているのかなと思うんですけど、その辺りも含めて。
○林委員長　どうぞ、担当課長。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　今回の前向きに話し合える場の人数に関してなんですけれども、例えば、千代田区が既に実施した女性の皆さんがお集まりいただく会議についても、ワークショップの形での開催で、３０名にお集まりを頂いた上で開催しているというふうに伺っています。一定程度、やはり人数については絞った上での開催というほうが、意見の取りまとめをするに当たってはよろしいだろうというふうなお話もあったので、今回、ご意見を伺った上でというふうには考えていたんですけれども、３０名というのが一つの目安になるのかなというふうには考えています。その３０名の内訳について、在住、在勤、在学という方々を対象に応募するんですけれども、冒頭申し上げたように、可能であれば、多様なご意見が頂けるような構成が望ましいだろうというふうに思っておりますので、なるべくバランスの取れた形での方々にお越しを頂けるような構成が最も望ましいと考えております。（発言する者あり）
○林委員長　だから、別に在住何人とかというのは想定はしていないんですか。
　岩田委員。
○岩田委員　僕は、人数のことじゃなくて、さっきからずっと属性のことを言っています。多様な意見をというんだったら、それこそ、そういう業者の方も、どういう気持ちで、どういう意見なのかというのをはっきりと皆さん聞きたいと思うんですよ。それがどういう方なのかというのを知ることによって、その意見も、ああ、なるほど、そういう考え方なんだなというのが分かると思うんで、そこは包み隠さず堂々とやったほうが、皆さんの疑念を抱かれないような、そういう話合いになると思います。
○加島まちづくり担当部長　割合は決まってはいませんけど、やはり、在住の方が多くなるかなと。在勤の方に関しまして、どこまで、何でしょう、今後、例えばこの委員会に報告するときに、誰々でどこどことかというところまで出すとなると、ちょっときついかなという気はしますけれども、フューチャーセッションの場では、どこの誰々といったものは言っていただいていいんじゃないかなと。それは、ちょっとここでお約束はできるかなと思いますので、そういった形で、まずはやらせていただければ。比率に関しては、在学、在勤は一緒ぐらいですか、在住を比率を多く、そういった応募していただけると一番ありがたいかなというふうに思っていますので、それでよろしくお願いできればと思います。
○林委員長　どうぞ、小枝委員。
○小枝委員　帰属の話は、私もそのとおりと思います。繰り返しません。ただ、マイナスな話だけじゃなくて、また世田谷の事例から言わせていただくと、あそこは、鉄道会社が２社入っていて、敷地も持っていて、高く建てれば収益もたくさん取れたわけですけれど

も、まちづくりという円卓に入る中で、容積いっぱいではなくて、まして、建てるというようなこともして、要は、利益最大化というのは、企業の使命ではあるものの、やっぱり地域と融和していくということも共有していったということからすると、こそこそしない、自分は何者であるかをしっかりとちゃんと伝えながら、参画をしていくということは、まず必要であろうと。

それから、住環境ということにこだわるということは、番町においては、非常に当然のことなので、それを建設的ではないというような考え、偏った考え方に立つと、排除になってしまうので、当然、住環境を保全しながら、バリアフリーや広場の有効な活用という話合いになっていくわけなので、そこは、当然、区のほうも、あと、ファシリテーターのほうも、しっかりと把握していただく必要があるということをぜひ踏まえていただきたいと思います。

その上で、メンバーを限定してしまえば、これが全ての会議ではないと思っています。当然、これから不特定多数に対して、しっかりと区が都市計画を打ったんですから、区が説明するという場面が多々あるだろうというふうに考えてはおりますけれども、ただ、この会議体においても、希望があれば傍聴ができるであるとか、あるいは、議事録は作成し、どうしたことが話し合われているか、フィードバックするためのまちづくりニュースなども配付するであるとか、そういうふうな情報をしっかりと、何というか、知り得るということも大切なことだと思うので、その辺のところも考えていただいた上で、慎重派も推進派も同じテーブルにつけるということを最大限に努力していくことが、やるのであれば、必要だ、最低限必要だと思うんですけども、そこのところは、どういうふうな考えでおりますかということをお答えください。

〇榊原麹町地域まちづくり担当課長　実施方法、先ほど申し上げたとおり、ワークショップ、グループワークのような形でということを考えております。その方式で開催をした場合、公開という形がどこまでなじむのかというところはあるのかなというふうには考えています。なので、公開でもうまく皆さんに議論の状況が把握できるような形であれば、もちろんそれも考えますし、場合によっては、集約した結果として、こういったご意見が当日出ていたというようなことを、何らかの形でお知らせするとか、そういったことも含めての公表というのは、当然、考えてまいりたいというふうに思っております。

〇小枝委員　全てが終わってから広報されるということになると、やっぱり、そこが送受信にならなくて、一方的にということになってしまうということがあるので、これ、何か月やるって、決まっていないということでしたか。

〇林委員長　今のところ、１回です。

〇小枝委員　１回。

〇林委員長　年内に。ですから、どうしますかという相談を再三……

〇小枝委員　年内１回。

〇はやお委員　年内１回やって、でも、また委員会に報告するんでしょう。必要だったら……

〇林委員長　あとは、あれじゃないですか、記録を取らないように、委員の方が見れるような形にするとか。行きたい人がですよ、全員が行くわけじゃなく、１２月だったら、それぞれ、いろんなのがあるでしょうから、とか。ライブ中継はしないんでしょうけれども、

何らかにちょっと見たいんじゃない……
○小枝委員　いやいや、私は……
○林委員長　いやいや、そうじゃなくて。要は、それがあると……
○小枝委員　私がというんじゃなくて、二番町の……
○林委員長　いや、違います。言っているのは、要は、委員会もそうですけども、傍聴の方がいると、それなりに緊張感と節度ある言葉になるんですけど、非公開で傍聴の方もいないと、かなり粗い言葉、「あらい」って、荒川の「荒」じゃない言葉ですよ。粗い運営とか、やっちゃったりするのもございますので、ある程度、外部の目というのも見せていただく余地を残しながら。だから、ここで募集するときに、非公開とかって、広報千代田でかけちゃうと、何、のぞきに来ているんですかとかになっちゃうんで、そこも裁量を入れていくとか、回数についてもちょっと入れるとかという余力をこの場で確認しながら行かないと、不信感があると、せっかく場をつくっても、最初からの出来レースみたいな話になっちゃうと、やっているほうもつらいでしょうし、参加された区民の方も切ないでしょうから、そこは一定の担保を取れるような形のを確約していただいて、次に行くというのが一番スムーズですかね。どうですか。
　岩田委員も確認しに、よくお顔を知っているでしょうから、事業者の方も。傍聴していただくとか、意見は言っちゃ駄目でしょうけど、プレッシャーになってもいけないんでしょうけど、ある程度やっていくというのを、どこかで少し隙間を入れないと、全面公開というのは、僕もやってはいけないことだと思うんですよ。みんな、区民の方とか在学の方は萎縮しちゃうんで、事業者の方は職責で給料をもらっているから行くんでしょうけど、そうじゃない方は嫌でしょうから、ある程度こう、その代わり、あんまりＳＮＳに書き込みませんみたいな制約を取ったり、中身については写真を撮りませんとか、何かの一定の条件の下に、ちょっと中に入れるようにしていただくと、不信感の上に入っていくというのはなくなるんでしょうかね。
○春山副委員長　そうですね。いろんな方が参加して意見を言いたいと思えるような……
○林委員長　うん。意見を言いますか、手を挙げて。
　どうぞ、春山委員。
○春山副委員長　委員長に議事整理していただいて、ありがとうございます。
　完全にやっぱり今まで過去の背景というか経過の中で、やっぱり、今まで意見を言ってこなかった、先ほど桜井委員にいろんな方がお話があったとおっしゃられていましたけど、そういう方々が意見をぜひ言ってみようと思えるような環境設定というのがすごい大事かなと思います。全面公開して、何か言ったら、後でまちで何か言われるんじゃないかというふうなことも言われないような募集の仕方というのを考えていただきたいと思います。
　それと、やっぱり非公開というのもちょっと違うと思いますし、アウトプットの仕方もいろんな事例があると思うので、それも参考にしていただければなと思うのと、あと、もう一つは、場所のセッティングの仕方とか、空間のデザインとか、そこがオフィシャルな形で、対立で意見を言うというよりは、和気あいあいと意見が出せるような、多分、ファシリテーションだけじゃなくて、空間のつくり方というのも大事だと思う。その辺、よく配慮していただきたいなと思います。
○桜井委員　はい。関連で。

○林委員長　はい。桜井委員。
○桜井委員　春山副委員長がお話しになられた、まさにそのとおりだと思いますね。自由に活発に意見が言えるという環境をいかにつくっていけるのかということはとても大切だし、難しい、大変なことだと思うんですけど、だけど、やはり、そういう意見を多くの方から幅広に吸い上げる、そのための前向きな話合いをするという場なわけですから、ただ、そこに出て、例えば、名前が出たために、後々大変な思いをされたとかというようなことがあってもいけない。ここのところは、ファシリテーターや学識経験者、議事とまでは言わないのかもしれないけども、話合いの場を運営する方たちの、何というんだろうな、そこの参加されている方のそれについての意見を聞くのもいいだろうし、やはり、かちっと決めちゃうんじゃなくて、少し皆さんからもそういう希望を聞く形の中で言いやすい環境をつくっていくという、そういうことが大事なんじゃないかと私は思うんですけども、非常に難しい話だよね。でも、せっかく前向きなというようなことを書いていただいているんだから、やはり、そこは考えていただきたいと思いますけど、いかがですか。
○榊原麹町地域まちづくり担当課長　ただいまご指摘いただいた点に関して、まず、やはり環境設定として、安心して皆さんが参加できるというような環境は必ず必要なんだろうなというふうに強く思いました。また、ご参加いただく方、恐らくいろんな思いを持ってお越しいただくので、その方々が思っていることを、お越しいただいた際にしっかり意見として伝えられるような、話しやすい雰囲気というのをどうつくっていくかということに関しても、こちら、委託する事業者のほうとしっかり検討してまいりたいというふうに思っています。そういった点を踏まえて、公開、非公開というようなこともお話がありましたが、どういった形が望ましいかということについて、そちらも決めてまいりたいと思っております。
○桜井委員　まさに陳情の文章の中にあったよね。
○林委員長　まあ、どうですか。１回、取りあえずやってみるというのと、それで、終わらない――のり代ぐらいは、委員会として、１回で終わって、もう、これで場はつくりましたと。じゃあ、あとは、やっちゃいましょうという形になって、もめごとになってしまうと困るんで、１回にこだわることなくというのを、委員会で集約してよろしいですかね。
〔「はい」と呼ぶ者あり〕
○林委員長　はい。いいですか。（発言する者あり）はい。ありがとうございます。
　それでは、１１月５日号の広報千代田で前向きに話し合える場の設置というのを募集はするんですけれども、１２月の末にやる１回に限定することなく、その後、いろんな議論展開を含めて、ちょっとのり代をつけていただくというのを確認しました。
　併せて、どうしますか、委員の方が、要は、職員の方でクローズしてやると、またあるでしょうし、区議会の委員会だけがのぞきというか、傍聴を――のぞきは適切じゃないですね、傍聴というのがあると、じゃあ、ほかにももっともっとになってくると、難しいところがあるんですけれども、要は、公開、非公開のところです。区議会の僕らが、全員に、みんなに見せるって、オープンな場でというのは、これはやめたほうがいいと思うんですけれども、一定の水準で、先ほど言ったように、書き込みは駄目よとか、中のライブ中継みたいなことはやっちゃいけないという下に、紙を書くのかどうかは別として、見るというのものり代で。だから、公開、非公開というのを、ある程度、もちろん都市計画審議会

でも、この区議会でも、傍聴させていいですかって、メンバーの方に一応確認を入れてから、その方たちがいいと言ってからオーケーになるんで、見せろと言われて、はい、そうですかというわけにもいかないんで、参加された方たちに、一応、内々で、もし、傍聴が、傍聴が……

○春山副委員長　……ちょっとのぞきに行ってもいいですかみたいな感じ。

○林委員長　うん。ぐらいのところで、かといって、全員、希望者にそんなことをやると、多分、会場の都合等々もあるんで、ちょっと、のり代は、もう非公開、公開という形のそこものり代で考えていただいて、全部見るというわけでもなく、にらみつけてもいけないでしょうから、少し雰囲気を我々のほうにも見せていただくようなのり代、大事なのは、そこにおられる参加される二、三十名の方の総意をもっての確認の上ですけどね。誰かが嫌だと言ったら、それはやめたほうがいいですけども、皆さんがいいんじゃないですかと……

○桜井委員　確認していただく。

○林委員長　うん。確認していただくというところを申し入れましょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）参加者に傍聴の有無についても。

○桜井委員　そうしよう。

○林委員長　で、その場合、あんまり幅広にやり過ぎるといけない、一義的には、我々の区議会の所管事務の調査に入っているんで、一応、委員会のほうから傍聴の申出があるんだけれども、皆さん、もしよろしければどうですかという投げかけをしていただくと。これで拒否されたら、拒否されたと。オーケーだったら、見させていただいて、今後の二番町のまちづくり、あるいは前向きにできるような状況を今後どうしていくのかという、で、環境影響調査につなげていくという形の取りまとめでよろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長　はい。ありがとうございます。

　じゃあ、そんなところで、表記の仕方も、ちょっと事前に確認できれば、ありがたいなと思います。

　で、（発言する者あり）トイレ休憩しますけども、どうしましょうか。本日のところは、陳情２６件全体というよりも、前向きに話し合える場の設置というところに集約、焦点を当てて議論しましたけれども、２６件の陳情の取扱いについて、いかがいたしますか。

〔「継続」と呼ぶ者あり〕

○林委員長　はい。いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長　はい。それでは、日本テレビというか、二番町地区のまちづくり関連の陳情２６件につきましては、継続の取扱いとさせていただきます。

　よろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長　はい。以上をもって、じゃあ、二番町地区まちづくり関連の陳情審査を終了いたします。